"嬬恋キャベツ"と燐硝安加里

強酸性土壌には特異な効果が……。

河　見　泰　成

最近の主要野菜の需給動向と キャベツのウェイトについて

食卓にのぼる茎葉菜類のなかで，と角話題が多いのはキャベツではないかと思う。"でき過ぎた"と云っては"産地が泣いている"と云われるかと思うと，"天候が不順で不作"とかで，今度はバカ高になったり…。

或る小百科辞典によるとキャベツは，"キャベジ(cabbage)の訛，甘藍，玉菜，欧州原産のあぶらな科の2年草。明治以来馴化。結球性ある重要葉菜，ビタミンA，C豊富，冷涼気候に適。"とあり，"明治以来馴化(じゅんか)"とあるが，この馴化というのは，広辞苑によると"気候の異なる土地に移された生物が，次第にその環境に適応するような体質に変じること"とあるから，われわれは相当古くからキャベツを口にしてきた訳である。

ではキャベツは，主要野菜のうちでどんな地位を占めているだろうか，次の表をご覧願いたい。

46年度春夏野菜の生産出荷動向 (面積：ha 数量：トン)

	収穫期	実数		
		作付面積	収穫量	出荷量(生食向け)
きゅうり	春もの(4～6月)	2,600	185,800	
トマト	〃 (4～6月)	1,590	109,200	
なす	〃 (3～6月)	398	22,800	
キャベツ	春もの(4月) 初夏もの(5～6月)	3,890	134,500	
だいこん	春もの(4～6月)	945	38,000	
にんじん	春夏もの(4～7月)	1,410	32,000	
たまねぎ	府県もの(4～3月)	13,000	517,300	
きゅうり	夏秋もの(7～11月)	14,500	421,300	257,400
トマト	〃 (〃)	7,830	380,000	166,900
なす	〃 (7～10月)	6,250	200,700	129,900
キャベツ	〃 (〃)	7,030	294,100	243,300
はくさい	夏もの(8～9月)	3,150	161,800	135,300
だいこん	〃 (7～9月)	5,630	159,400	87,300
にんじん	秋もの(8～10月)	4,080	85,900	63,600

(農林省－青果物生産出荷予想調査)

そのキャベツについて群馬県が，そして吾妻郡嬬恋村が全国に知られた高冷地キャベツの生産地であることはご承知の通り。とくに東京都にとって嬬恋村は，おいしいキャベツを大量かつ長期にわたって供給して呉れる有力な背後地 (Hinter Land) として，その存在を銘記しておかなければならない。

また，ここでは，チッソ旭の燐硝安加里1号が別項のように，嬬恋キャベツの生産のお役に立っているとこでもある。

吾妻川沿いに展開する 健康的で清潔な家なみ

嬬恋(つまこい)…，何という粋(いき)な言葉だろう。嬬は妻で，嬬恋とは，夫婦が互いに恋慕うという意味である。

ところが，出不精な筆者はかつて渋川，伊香保から先へは足を踏み入れたことがない。(誠にお笑い草だが本当である。)

その嬬恋の現地を，この4月の上旬，思いがけず訪れる機会に恵まれた。もちろん独りではないが，先導役のチッソ旭の川端さんは予定の時間に"万座・鹿沢口駅"に出迎えるという段取りで，4月12日の朝，久振りに上州の山々を眺められる喜びに胸ふくらませて上野駅を発ったのだが，"晴れ男"の神通力も通じないと見え，熊谷あたりまでずっと小雨が車窓を叩いていた。

それでも高崎あたりに来る頃には，幾分雲が切れては来たものの，渋川から先の吾妻線沿線から見える山々の尾根は，前夜降った雪に覆われていた。"この分では嬬恋は雪だんべ？"など考えているうちに"川原湯""長野原"を過ぎると"万座・鹿沢口"までアト幾らもなかった。

幸い空はすっかり晴れて，車中の憂鬱感はようやく雲散夢消した感じだが，草津を経て白根山へ，或は鬼押出し・浅間山を経て軽井沢に近い海抜1千米のこのあたりは，春の訪れはまだだいぶ先のことらしい。

駅頭から川端さんの車で嬬恋村農業協同組合へ向う。流域に硫黄泉が多いせいか褐色の急湍となって流れる吾妻川沿いに，ちょうど鰻の寝床のように展開している嬬恋村周辺のただずまいは，いかにも健康的で清潔である。とに角，にごり…というものが感じられないのである。志賀高原へ抜ける有料道路の完成で，これからはますます車の往来が頻繁になるだろうが，願はくは現在の姿のままであって欲しいと思う。車でホンの数分，川端さんと二，三やりとりしているうちに，嬬恋村大前の嬬恋村農業協同組合に着いた。

今日はご苦労さん……。（経済課の宮崎忠夫さん）

発案者は果して誰か

ハッピの襟もとの標語と"連帯意識"

昨年1月，建設費7,500万円，設備費1,500万円，合計9,000万円の巨費を投じ，階上には結婚式場さえあって，神官の資格研修に合格した職員2名を擁するというこの農協事務所は，幾つかの開拓農協を合併した広域農協らしく，いかにも堂々たる構えである。

川端さんの後について事務所に入って，また驚いた。これはまた何んと贅沢（ぜいたく）にスペースがとってあることか。広々とそして奇麗に。それに気がついたことは男・女を問はず職員諸氏が縦縞の法被（ハッピ）を被ていて，その両襟の右・左に

　　嬬恋村農業協同組合

　　肥料と農業資材は共同購入

と染め抜いてあることだ。

職員が同じハッピを被ている農協は，他にもあるかも知れないが，そのハッピにも嬬恋村のそれと同じような標語が書いてあるだろうか？

生産農家の"連帯意識"を昂める本当に上手な方法で，（別掲の写真中の宮崎さんが被ているハッピの襟に染め抜かれてあるのがそれだが）或は，これはテレビに，ラジオに，新聞・雑誌の産談会などに何回となく顔を出すばかりか，長いこと嬬恋村々議として精力的な活躍を続けている組合長・森田さんの発案になるものだろうか。

広い事務所内を眺めながらこんな感慨にふけっていると，"やあ，どうも寒いところで苦労…。"と元気な声をかけながら経済課の宮崎忠夫さんが見えた。（このとき撮映したフィルムは宮崎さん以外は全部失敗した。慎んでお詫びします。）

"今日はキャベツと燐硝安加里の取材だそうだが，あまり上得意でもねえ儂（わし）らのとこへ足を運ばせて悪いね。何？書くのが商売だから……？なるほど。さーてね，嬬恋キャベツの栽培歴というお訊(たず)ねだが，

嬬恋村高原野菜キャベツ栽培指針

①　主な作業

準備期（1月～3月）＝昨年の反省，今年の計画，土壌改良。

育苗期（3月上旬～7月上旬）＝播種床準備，播種，温度管理，苗の馴化，病害虫（根ボソベト病）防除。

畑準備定植期（4月中旬～7月中旬）＝土壌改良資材散布，耕耘，ねこぶ病防除剤散布，作条，施肥，畦立，除草剤散布，定植。

生育期（5月上旬～9月下旬）追肥，中耕除草，病害虫防除。

収穫期（7月中旬～10月下旬）＝収穫，選別，荷造，出荷，エン麦およびライ麦播種。

②　栽培の主な留意点

品　種　奨励品種＝日の出，群馬一号，準奨励品種＝エコー，群馬二号，四季穫。

育　苗　3月～4月播種のものはハウスまたはビニールトンネルを使い，それ以後は露地冷床育苗とする。

・育苗床面積　栽培面積10a当り25～30m² が必要，播種量は80mℓ（4袋）を用いる。

・床作り　1m² 当り完熟堆肥1kg以上，硫安50g，過燐酸100g，塩加20gを堆肥とよく混合して全面に散布して，表土10～15cmの土壌とよく混和する。床の巾は1.0～1.2mとし，長さは適宜とし10～15cmの揚床にして，床の表面を軽く塡圧する。なお苦土石灰100～200gを散布する。

・播　種　6cmの巾，深さ1.0cmくらいの条溝を作り播種し，覆土して敷ワラをする，土の乾燥しているときは灌水（湯）する，ビニールトンネルをかける。

・管　理　夜間はビニールトンネルの上にコモをかけ，日中温度は25°Cくらいに換気する。

・苗の馴化　定植予定日の7～10日前から夜間もビニールをはぎ，苗を寒さにならす，がっしりした活着のよい苗となる。

病虫害防除　・根ぼその予防　①デクソンPCNB粉剤を1m² 20～30g を全面に散布し，すぐ床表面の土壌をよく混和する。②ミルトン乳剤1,000倍液を1m² 3～4ℓ播種予定4日前にジョウロで全面に散布する。③本葉の出始めにオーソサイド水和剤400倍をジョウロで1m² 当り3～4ℓ散布する。

農協勤めは18年にはなるけど，ここに来てからは8年にしかならねえ。そういうことは組合長さんに訊くのがいちばんいいよ…。”

と云って，お偉方（えらがた）が列んでいる奥の方を指した。

有機質の給源が枯渇して
堆肥の投入は結局“原則論”になる

さて，話の順序として，嬬恋キャベツの栽培概況を示しておこう。

キャベツの栽培面積は 1,400ha（或は 1,700ha とも 1,800ha とも）と云われ，この農協の取扱品目の首位を占めている。このほかレタス，ハクサイなどのほか，高原台地の自然条件を生かして牧草，種馬鈴薯の栽培が広く行われているが，これ以外に昭和50年に完成が予定されている 800ha のパイロット事業が，現在 160～170ha まで進んでいる。

“という訳だが，ご覧の通り浅間や白根を控えた高原地帯だから，決して恵まれたとは云えねし，酸性が強い。そこで健苗仕立と同様に，土壌の健全化が第一義的に要求されるので，これまで随分とこの対策には骨を折ってきたつもりだけど，この頃は根コブ線虫や萎黄病などの病害虫のほかに，明らかに土壌障害と思われる現象が目につくようになった。”

“もちろんその対策としては各種の土壌改良剤を投入するほか，栽培指針にも書いてあるように相当量の堆肥を施すことを原則としているけど，これは文字通り原則です…。給源が枯渇に近いような現状では，いわゆる土壌改良剤などに頼らざるを得ない。早い話が…。”

と，窓の外（そと）を指さしながら，

“キャベツの栽培現場は，ここから大体上の方にあるが，1,400ha の圃場をかこむ山林の殆んど全部は落葉松（からまつ）の国有林なので，これまでは営林署の諒解のもとに落葉松の葉を有機物として投入してきた。ところがご承知の通り林野庁のご都合とやらで，たくさんあった落葉松の立木が皆伐されちまって，山からは有機のカケラも出ないっていう訳だ。”

宮崎さんは苦笑した。国有林の伐採計画の話は耳にはしていたが，現実にこれほど大きい有機質の給源が断ち切られたということは，やはりショッキングな話であった。

“だから苦土石灰や熔燐を施すと同じような意味と初期生育を促進する必要から，燐硝安加里のような肥料を施す必要が考えられる。ここで扱っている肥料と農薬？肥料は各種の土壌改良剤を含め約1万トン（1億6,500万円），農薬は8,000万円となっている。肥料のうち高度物は約3千トンというとこかな。”

一産地として肥料（土壌改良質材を含め）1万トン，高度物の肥料だけで3千トンを投下するところは，全国でそうザラにはあるまい。

これらの肥料や資材が7月中旬から10月中旬の出荷に

• べと病　5～6月の多湿の時期になると葉に多く発生する。ダイセン 400倍，ダイホルタン 600倍を発芽揃いより，葉裏にも十分散布する。

畑土壌の改良　嬬恋村の野菜地帯の土壌分析をみると一般に酸性が強く，石灰，苦土，燐酸の不足している土壌が大変多いので改良につとめる。10a当り苦土石灰200～400kg，ようりん 100～150kg に過燐酸 20～40kg を混合し，全面散布してトラクターで耕耘する。

15 kg ダンボールにあった結球にする

46年から 15kg ダンボールが多く使われるので，従来より小球になるよう栽培に当って注意する。畦巾 50～54cm，株間30cm（10a当り 6,667～6,172本）くらいに，従来よりやや密植にする。収穫期は遅れないようやや早目に行う。

施肥量　良質の堆肥を多く入れるように心がける。ライ麦を裏作した畑では，ロータリー耕を十分行う。

	肥料名	総量	基肥	追肥	成分量 N	成分量 P	成分量 K
1	硫加燐安21号	100 kg	100 kg		18.6～23.2kg	24.0kg	18.0～21.0kg
	熔燐	60	60				
	尿素	10～20		10～20kg			
	塩加	15～20	8～10	7～10			
2	BM化成1号	100	100		19.9～22.2	28.0	18.0
	熔燐	90	90				
	尿素	15～20		15～20			
	塩加	10		10			
3	燐硝安加里1号	100	100		19.6～21.9	27.0	18.0～21.0
	熔燐	60	60				
	尿素	10～15		10～15			
	塩加	10～15		10～15			

＜備考＞　堆肥は10a当り1,000kg以上施用する。
追肥は活着したら第1回を施し，その後生育状況をみて行う。

間に合うよう，元肥や追肥として施用される訳だが，この数字を裏付けるように，嬬恋というこの大産地における生産農家の1人当り経営面積は平均3haないし3.5ha（中には10haという大規模経営者もいる。）で，500人がトラックおよびトラクターと乗用車（中には2，3台）を所有していて，圃場を走るトラック上から，これらの肥料をまくのだそうな。西部劇の或るシーンが連想される。

その実況はさぞ壮観だろうと思うし，宮崎さんの言葉を借りると“だから，また肥料をやり過ぎる”ことにもなるらしい。

野菜経営は賭（かけ）だと云われる。つまり“3年に1回当ればよい。”という考え方だが，宮崎さんは“これから先は，そういうことは考えられぬ。”という。やはり経営は堅実に，安定的供給”をこそ目指すべきだということかも知れない。

それもこれも，キャベツ1a当りの粗収入が平均して15万円は堅いそうだから，3ha経営として450万円—ちょっと計算しても軽くこういう数字が出てくる実績から割出される，自信というか，自負というものであるかも知れない。

都（東京）への野菜供給産地として
キャベツ作りは，嬬恋村の使命

こんな話を伺っているところへ，奥の方から，背はあまり高くはないが，体軀のがっしりした57，8才がらみの人物が近ずいてきて“やあ，どうも…森田です。”と腰をかがめられた。組合長の森田さんだ。そこで，嬬恋村農協の基本的な方針などを伺ってみた。

“それはもうあなた，ごらんの通り標高1千米級の高原台地でしょ。しかも土壌環境のあまり良くないとこだから，キャベツを作るとか，ハクサイ，レタスを栽培するとか，でなければ酪農を手がける以外に方法はない訳ですよ。とくにキャベツの生産（昭和8年から）は，ここの使命みてえなもんで，1千万都民（森田さんは東京都民と云わずに，単に都民と云っていた。）のお台所を賄う責任とも考えおります。それには今以上に品質の良いキャベツを，できるだけ安い値段で供給しなきゃならん訳だ。”

“そこで…。われわれは品質の良い，安いキャベツを作る。但しそれには条件がある。ほかでもない，あなた方のように肥料や農薬のメーカーさん達には，よく効いて，しかも値段の安い肥料や農薬を提供して貰わにやならん訳だ。儂（わし）の話はこれまで，商談取決めの方は宮崎君に任かしてあるから，どうか宮崎君とうまくやって下さいよ…。アッハハ…。アッハハ…。ではご免。”

豪快な笑いを飛ばしながら，現在でも村会議員であり，自からキャベツを耕作経営しているというこの名物組合長は，どこか出かけて行った。

土壌条件の劣悪な畑では
きわ立った肥効を示すね

“どうして，どうして組合長は元気なもんでしょ？”と森田さんを見送っていた宮崎さんは，さらに次のように続けた。

“話を元に戻すけど，この辺のように酸性の高いことでは，とくに燐酸の欠乏している土壌には燐硝安加里のような肥料が，初期生育を促進する上からも必要だと思う。またこれを追肥にした場合どうかというと，対象はキャベツではなくてハクサイだったが，昨年或る農家が，一方の畑にや尿素を，別の畑には燐硝安加里をやったところ，尿素の方は失敗したが，燐硝安加里の方はメキメキ効果が出た。ここの土壌は特に土壌条件の悪い畑だったが，とに角，燐硝安加里という肥料はこういう土壌にはきわ立って肥効が出るようだなあ，川端さん…。

“…結論的に云うとね，高度物3千トンのうちの大部分は米麦用の肥料が使われてるのが実情。それはとに角として，今後の産地間の競争に勝ち抜いて行くためには，やはりキャベツもコストダウンしなければダメな訳だ。そこで，さっき組合長が云われたように，できるだけ安くて良い肥料，薬害もなく，効果はテキ面，しかも安い農薬であって欲しい訳だ。”

“高崎の大久保事件だの，過激派学生事件だの，このところ群馬県にや何一つ良いことは無え…。何か有るかって…，アゝこんなものならあるけど”と云って宮崎さん1枚のソノシートを差出した。これは上信越高原国立公園，吾妻郡嬬恋村・嬬恋村観光協会の委嘱によって創られた，“村歌・嬬恋村の歌”と“民謡・嬬恋小唄”だが，ここでは村歌の1部をご紹介しておこう。

明石幸吉作詩・小林秀雄作曲・和田香苗編曲

村歌　嬬恋村の歌

（大川栄策・青山和子）

光あらたに雲染めて
朝霧さそう高原に
命も若く燃え出づる
嬬恋村はあゝおゝらかに
希望の花の咲くところ

（以下略）

あとがき

風薫る5月がやってきた。いよいよ忙しい時を迎えますがことしの農作物の動向はどうなるでしょうか。4月17日発表された農業観測によると，特にパッとした期待を寄せることはむずかしいようです。ご健闘をお祈りします。（K生）